

# 国際規格の動向—国際会議に出席して—

須賀茂雄

## ISO/TC35/SC9(ペイント及びワニス/一般試験方法)オランダ・デルフト国際会議

開催日:2017年5月9日

場所:Netherlands Standardization Institute

参加国:ドイツ・アメリカ・フィンランド・スイス・オランダ・ケニア・中国・日本 8ヶ国 21名

当社から須賀、喜多の2名が参加した。

当社に関係するWG31(硬化後の性能試験)の審議について報告する。

(1) ISO/DIS 6270-1 Paints and varnishes — Determination of resistance to humidity — Part 1: Condensation (single-sided exposure)(耐湿性の測定—第1部:連続結露方法)は、審議の結果に基づき修正した文書をFDISへ進めることになった。

(2) ISO/DIS 6270-2 Paints and varnishes — Determination of resistance to humidity — Part 2: Condensation (in-cabinet exposure)(耐湿性の測定—第2部:結露雰囲気暴露方法)は、審議の結果に基づき修正した文書をFDISへ進めることになった。

(3) ISO/DIS 6270-3 Paints and varnishes — Determination of resistance to humidity — Part 3: Condensation (in-cabinet exposure with heated, bubbling water reservoir)(耐湿性の測定—第3部:試料回転方法)は、PL(プロジェクトリーダー)須賀の

コメントは全て受け入れられ、審議の結果に基づき修正した文書をFDISへ進めることになった。日本で広く用いられている試料回転式の湿潤試験機(当社CT-3型)による試験である。

(4) ISO 2813 Paints and varnishes — Determination of gloss value at 20°, 60° and 85°(塗料及びワニス—20°, 60°及び85°における光沢度の測定)は、光沢計の校正が主な改訂内容であり、PL:Nico氏より修正したWDが回送される。

(5) ISO/NWIP xxx Determination of solar reflectance by paint film(塗膜の日射反射率測定)は、PL須賀(予定)がプレゼンを行った。ドイツからTSR(Total Solar Reflectance)と測定方法が異なる、波長域が違っていると違う結果になるので混乱が生じると意見あり。アメリカは、ASTM E 903を使っている。日本と世界の自動車業界は、規格化が必要との意見があった。Form4(新規提案書)、WDを回送する。

(6) ISO/CD 20266 Paints and varnishes — Determination of image clarity (degree of sharpness of reflected or transmitted image)(写像性の求め方)は、ISO17221(プラスチックの写像性の求め方)と同じであるとCS(ISO中央事務局)からコメントが有り、DIS投票が一旦中止になったが、PL須賀が塗料の条件を追加する方針を説明し、改めてDIS投票に進めることになった。



会議風景



TC35 メンバ

## IEC/TC104(環境条件、分類及び試験方法)イタリア・ミラノ国際会議

開催日:2017年5月15日～19日

場所:CEI - Comitato Elettrotecnico Italiano

参加国:【MT16】【MT18】ドイツ・アメリカ・スウェーデン・イギリス・中国・韓国・日本 7ヶ国12名

当社から須賀、喜多の2名が参加した。

当社に関係する審議について報告する。

### 【MT18】

(1) IEC 60068-2-5 Environmental testing - Part 2-5: Tests - Test Sa: Simulated solar radiation at ground level and guidance for solar radiation testing (地表レベルの疑似太陽照射及び指針)は、審議の結果、CDV投票へ進める事となった。

### 【MT16】

(2) IEC 60068-2-52 Environmental testing - Part 2: Tests - Test Kb: Salt mist, cyclic (sodium, chloride solution) (塩水噴霧サイクル試験)は、新たに日本より提案したMethods 7と8に対して、欧州の試験機では移行時間を満足する事が出来ないとの理由で欧州が反対してきた。日本からはその問題は規格とは無関係と主張してきた。今回欧州より、再度移行時間が満足できずこのまま規格になってしまうと、多くのISO/IEC 17025(試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項)を取得している試験場が認定を取り消されてしまい大問題となるとの発言があった。議論の結果、移行時間を現在の時間と2倍の移行時間との両方を記載する事となった。審議の結果、FDIS投票へ進める事になった。

(3) IEC 60068-2-11 Basic environmental testing procedures - Part 2-11: Tests - Test Ka: Salt mist (塩水噴霧試験方法)

塩水の作り方をISO 9227に合わせる提案を須賀が行った。IEC 60068-2-11が改訂されれば、IEC 60068-2-52で本規格を参照できる。MT(メンテナ

ンスチーム)16でスガが作った比較表を1カ月回送する。

次回は、2017年12月11日～15日、東京で開催予定。日本でIEC/TC104が開催されるのは2003年京都で開催して以来、14年ぶりとなる。



会議風景



ミラノのドゥオーモ

#### < ISO 規格発行までの手順 >

予備段階	PWI	Preliminary Work Item (Project)
提案段階	NP	New Proposal for a work item
作成段階	WD	Working Draft
委員会段階	CD	Committee Draft
照会段階	DIS ※	Draft International Standard
承認段階	FDIS	Final Draft International Standard
発行段階	IS	International Standard

(※ IEC は CDV : Committee Draft for Vote)